

安心と新たな可能性への挑戦

稚内市長 工藤 広



2期目のスタートを迎えた工藤市長へ政策テーマである「安心と新たな可能性への挑戦」について、その想いを聞きました。

「安心と新たな可能性への挑戦」の『安心』には、どのような想いが込められていますか？

私は、まちづくりを進めるうえで重要なことは、市民の不安を一つでも取り除くことだと考えます。

暮らしの中では、「衣・食・住」が大切と言われますが、くしくも今わがまちが抱えている課題も「医・職・住」だと思っています。

1つ目の「医」ですが、これまで、このまちの市長として、市立病院管理者とともに全力で医師の確保に取り組んできました。

しかし、皆さんもご承知のとおり医師の減少や循環器内科、耳鼻科における常勤医の撤退など依然として厳しい状況にあります。

宗谷地域の総合病院としてのあるべき姿を守り、地域医療の充実を図るためにも、市立病院の勤務医、そして開業医の確保は最重要課題として、これからも全力で取り組んでいきます。

2つ目の、「職」とは、雇用の確保です。若者がこのまちに定着したり、子育て世代の人たちが安心してこのまちで働くことができよう雇用の確保にも取り組んでいきます。

組んでいきます。

3つ目の「住」とは、「住宅」「交通」です。

住宅環境の向上や交通インフラも含め、子どもから高齢者までが住みやすいまちづくりを推進していきます。

この3つのほかにも、特に私は、「教」つまり教育も大切だと思っています。

誰でもより良い教育が受けられる環境を整えていくことが必要ですし、学生たちのパワーをまちづくりに繋げることも、地域の活性化のために必要です。

地域の教育力向上、地域のにぎわいづくりに貢献する稚内北星学園大学とも一層連携協力を深めます。

また、子どもたちが安心して学ぶことができるよう学校の耐震化についても計画的に行っていきます。

さらに、高度成長期には、たくさんの公共施設が建てられ、その多くは老朽化しています。

古い施設を直しながら、使わざるを得ない状況ですが、子どもから大人までが使いたいと思ったときにすぐ使うことができる充実



したスポーツ施設の整備も、行政の大切な役割です。

私たちの生活に必要な「医・職・住」と「教」の不安をなくす取り組みを進めていきます。

「挑戦」について、どのようなことに取り組みますか？

この紙面上では「10の約束」

2期目の「10の約束」

- ・ 稚内港の拠点機能を高め、サハリンとの物流を促進します。
- ・ 風力発電利用の未来の姿を、このまちから発信します。
- ・ 「病児・病後児保育所」の開設や、「へき地保育所」の整備を進めます。
- ・ 「(仮称)子育て支援ウェブサイト」を開設します。
- ・ さまざまな世代による「コミュニティビジネス」の創設を支援します。
- ・ スポーツ施設の充実に取り組めます。
- ・ 勤務医、開業医とも医師の確保に取り組めます。
- ・ すべての小中学校の耐震化を進めます。
- ・ 外国人観光客の倍増を目指します。
- ・ 「ちょっと暮らし」への取り組みを拡大し、年間300組以上の家族の利用を実現します。

束」については、すべて説明できませんので、その中でも、日口定期フェリーの問題や、稚内港の国際港として拠点機能の向上や物流の促進について話します。

これから洋上も含め、たくさんの方々が建設される港に機材を運ぶことになり稚内港がその出荷基地となる可能性もあります。

サハリンの天然ガスのタンカーや大型資材の受け入れができる港を整備し、将来、物流の拠点となるよう機能強化を図っていかなくてはならないと思っています。

まちの持つポテンシャル

を發揮し、これらの可能性に向け、最重要事項として挑戦していこうという考えです。

最後に、市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

1期目の4年間は、市民の皆さんから、色々な話を色々な場所で聞くことができ、さまざまなことを見極めることができました。

2期目は、1期目の経験を活かし、限られた予算の中ではありませんが、「安心と新たな可能性への挑戦」を実現していく4年間にしていきたいと考えています。

市民の皆さんの温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。